

上海介護保険導入について

昨年末、上海市民生局が発表した「長期介護保険制度」の試行実施を受け、今年1月1日より上海市徐匯区、普陀区、金山区の三区で運用が開始されました。

この三区が選ばれた背景には、市の財政面を踏まえ、比較的高齢者が少なかったことがあげられます。そしてこの制度の利用条件は、これまで社会保険料を納付し、国の老齢介護認定（介護度2級〜6級）を受けた60歳以上の高齢者です。申請書が受理されて初めて利用出来るようになります。

者数は導入開始から約1カ月で5000人を超えているようで、現在ではおおよそ1万人以上が申請中、約8800人が利用しているとの事です。また申請に関しては、医療保険を管轄している衛生局管理下のナースステーションで行われていますが、処理が追いついていない状況のようです。

上海市医薬監督管理局署長の話によると、申請

政府が言うように、この試行が2020年を目処に全市へ広がれば、おおよそ430万人の高齢者が利用出来るようになると予測されています。スムーズな申請処理の仕組みの構築が現在の課題

利用者 約9000人に

となり、先行して長期介護保険制度を実施している青島市や長春市など、中国他市の現状分析も必要不可欠です。

長期介護保険制度の本格導入を目指している中国の現状を考えると、保険の財源は都市戸籍を持つ従業員を対象とした「都市従業員基本医療保険」から拠出されており、保険加入者は当該保険の加入者です。現時点での保険加入者数は3億人程度と中国全人口の2割程しかいません。

中国の **高齢者マーケット**
 ~介護・不動産事業の行方~



ゲストハウス総経理 稲田義人

著者プロフィール
 ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本語介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

なる発展を目指す中国ですが、このような状況では、介護サービスを利用したくても利用出来ない高齢者が多く存在してしまします。社会保障制度の整備を進める事が将来の介護分野の発展と高齢者の安心に繋がる事は間違いないので、最重要課題であると思えます。